

佳作

無条件の愛情

加藤 恵

柳田先生、はじめまして。

私は月曜から金曜までフルタイムで仕事をする一児の母です。息子は小学校三年生になり、自ら本を読むようになって、読み聞かせをすることもなくなり、絵本を読む機会がかなり減ってしまいました。そんな中、夏休みに近くの図書館で息子が本を選んでいる間にいくつかの絵本をみてみると、素敵な絵本に出会いました。

それは宮西達也さんの「おかあさんだいすきだよ」という絵本です。子供の正直な気持ちがたくさん詰まったとてもわかりやすい絵本です。

毎日忙しい中、私もこの絵本のお母さんのよう

に（いやもっと）厳しい言葉で息子を叱りつけることが多いです。いけないなと思いつつも、ついついガミガミ言ってしまう。読んでいてこれって私の事かと思うぐらいなずきながら読みました。息子にも読ませると「これ、うちと一緒にだね。」と笑いながら言っていました。

またこの絵本で印象的だったのは、表のページと裏のページのおかあさんの顔の表情が違うことです。表のページは怒っている顔、裏のページには愛に満ち溢れた顔が描かれています。表情は全く違うけど、どちらのおかあさんも子供を愛している表情が絵を通じて読み取れました。

時々、厳しく怒りすぎて泣きながら寝てしまうことがあります。そんな時、子供の寝顔を見る度に、「私は何でこんなに怒ってしまったんだろう。

明日は笑顔で子育てしよう。」と反省する事があります。それなのに次の日の朝、またすっかりそれを忘れて怒ってしまいます。母親として同じことを繰り返す自分に嫌気がさします。それなのに息子は毎日まぶしい笑顔で私に話しかけてくれるのです。この子を産んで本当によかったと思える瞬間です。この本を通じてまた新しい気持ちで息子と向き合う気持ちになりました。

最後に息子に対してメッセージを書いてこの手紙を終わらせたいと思います。

大智へ

あなたが産まれた時、私はただそれだけで幸せでした。いつも元気で、笑顔でいて欲しいと今も毎日思っています。

それなのに私は厳しい言葉であなたを叱ってし

まいますね。あなたにはいつも優しい言葉を使うように言っているのに。ごめんなさい。反省しているのですが、ついまた叱ってしまいます。あなたが傷つくとわかっていながら、あなたに対して成長して欲しいという気持ちが強くなりすぎて、怒ってしまうのです。でもそれは私のわがままですね。

そんな私なのにあなたはいつも温かい笑顔で、「ママ!」と寄り添ってくれますね。いつもありがとう。本当にありがとう。

私はあなたが大好きです。今までもそしてこれから。

〓柳田邦男先生からのメッセージ〓

子どもに対し、ついつい怒ってしまい、厳しい

言葉を投げつける母親って、少くないですね。

加藤さんは、そういう自分の傾向について、まるで懺悔するみたいに赤裸々に書いています。でも、わが子を愛していないわけではない。「私は何でこんなに怒ってしまったんだろう」と、小学校三年の子どもの宿題を見て反省するという。きっと、フルタイムで働いていることもあって、疲れているのかもしれないね。

面白いなと感じたのは、厳しく子どもを叱るお母さんのことを子どもの視点から描いた絵本『おかあさんだいすきだよ』を見つけた加藤さんが、「これって私の事か」と思っただけでなく、息子さんにも読ませたら、息子さんは『これ、うちと

一緒だね』と笑いながら言ったという場面です。子どもにとって、母親はやっぱりなくてはならない存在なのですね。

加藤さんがおたよりの最後に付けた息子さん宛の手紙、息子さんがどのように読むか、そして加藤さん自身がどう変わるのか、またおたよりを書いてはいかがでしょうか。